

## 平成25年度第二回森林環境保全基金運営委員会 議事録

開催日時 平成25年11月22日(金) 13時30分～15時30分  
開催場所 高知会館 3階「弥生」  
参加者 (委員)  
有光尚委員、片岡桂子委員、門田芳穂委員、川村純史委員  
中井勇介委員、根小田渡委員、林須賀委員、堀澤栄委員  
(事務局：高知県林業環境政策課)  
高橋課長、井澤課長補佐(木の文化担当)、福田主幹、吉田技師  
(事業担当課)  
鳥獣対策課：大野主任  
林業改革課：吉門主任  
木材産業課：久川課長補佐、大家主査  
環境共生課：竹村チーフ、高橋主査  
高等学校課：高橋指導主事、宮川主幹  
生涯学習課：瀬沼チーフ  
欠席  
時久恵子委員、山中國保委員

1. 林業環境政策課長挨拶
2. 委員長、副委員長選任  
委員の互選により、委員長に根小田氏、副委員長に堀澤氏が選任された。
3. 議事

### 【1】平成24年度森林環境税活用事業の総合評価表(案)について

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

ボランティアの方が実施する間伐は、森林環境保全基金を活用して支援を行っているのですか。

(福田主幹)

森林環境保全基金での、ボランティアの実施する間伐への支援は二つあります。

一つは、森林保全ボランティア活動推進事業費補助金。当事業は、新規団体へのチェーンソーなどの機械購入に対する経費と、間伐の対価として地域通貨券を発行した市町村に対して経費を補助しています。

二つ目は、こうち山の日県民参加支援事業委託料。当事業は、県民参加型の森林保全ボランティアイベントを実施した際に、参加者の保険料、指導者の費用等を委託料として支援しています。

(根小田委員長)

地域通貨の実績はどのようになっていますか。

(福田主幹)

本山町と四万十町の2町で実施しており、活動面積は合計 6.68ha となります。

(根小田委員長)

発行された地域通貨は地元で使われるのでしょうか。

(福田主幹)

はい。

(根小田委員長)

地域通貨券事業にかかる経費は、全て地域通貨券として使われるのでしょうか。

(福田主幹)

全てではありません。当事業は 1ha66,000 円補助していますが、地域通貨券の費用が 60,000 円。市町村の発行にかかる事務費が 6,000 円となっています。

(根小田委員長)

間伐された材は切り捨てになるのでしょうか。

(福田主幹)

各ボランティア団体に間伐した材の扱いは任せています。材を搬出している場合もあれば、道から遠い場合は切捨間伐ということもあります。

(根小田委員長)

搬出される場合はどのように使われるのでしょうか。

(福田主幹)

材の形状により薪として使う場合もあれば、C材として販売する場合もあり、材が良ければA材として販売する場合があります。

(根小田委員長)

C材はどのように使われますか。

(福田主幹)

例えば、チップなどにするため、チップ業者に持って行ったりもしています。

(根小田委員長)

販売したお金はボランティア団体の収入になるのでしょうか。

(福田主幹)

ボランティア団体の収入になります。ボランティア団体としても、搬出するための経費、トラックの運搬費用などが掛かっていますので、県は経費の差し引きなどを行っていません。

(井澤課長補佐)

先ほどの地域通貨の2町、本山町と四万十町となっていますが、以前は7市町村ほど実施していました。段々と参加する市町村が少なくなっているのが現状です。

(根小田委員長)

ボランティアの人が少なくなってきているのでしょうか。

(井澤課長補佐)

ボランティアの数は減っていませんが、当事業を活用している市町村が現在2町と少なくなっており、他の市町村から当事業を活用したいという声もありません。

(高橋課長)

ボランティア団体への活動補助については、今年度から、国が交付金という形で事業を開始しています。先ほど説明した森林環境税の事業は、市町村を通じた補助。国の方は、県・市町村を介さず、ボランティアの活動団体に対して交付という制度ができており、ha

当たりの単価も高いので、この国の事業を使ってもらったほうが、幅広に活用することができます。県としても、基本的には、こちらの方向で対応することを考えているところです。

(中井委員)

私たちは本山町で1ha間伐して、地域通貨をいただき、チェンソーやチェンソーズボンを買わせていただきました。1ha間伐して、伐採した材は自分たちの好きにしていということで、使い勝手はいいと思うのですが、1haを間伐して搬出するのに、私たちはかなり苦勞しました。

搬出した材は、市場に持って行ったり、C材は、木の駅に持っていったりしています。木の駅とは、嶺北では「さめうら水源の森、木の駅プロジェクト」という仕組みがあり、C材を持って行くと、トン当たり6,000円になります。そんな形でボランティアの方に作業に来ていただいて、ちょっとしたお小遣い稼ぎにしてもらうこともやっています。

(根小田委員長)

高等学校課の森林環境保全事業は、林業科のある高校あるいは、環境コースのある学校に対して補助をしているのでしょうか。

(福田主幹)

高校生森林環境理解事業は、四万十高校、高知北高校、幡多農業高校が事業を実施し、環境教育的なメニューに対し補助しています。高校生後継者育成事業は、幡多農業高校と高知農業高校に対して、林業研修のバス代、保険代を補助し、研修に参加しやすい体制を整えています。

(根小田委員長)

他の学校、また私立学校は環境教育には関わりはないのでしょうか。

(福田主幹)

おそらく、環境教育的な授業はなんらかの形で実施しているとは思いますが、当事業は活用していません。土佐塾高校では、課長が説明した林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を学校林で活用し森林環境教育を実施しています。

(根小田委員長)

他は特にありませんか。この評価で良いと思いますがよろしいでしょうか。

<異議なく、事務局案を承認>

## 【2】平成25年度森林環境税活用事業の中間報告について

### ～公益林保全整備事業・みどりの環境整備支援事業(林業改革課)～

(吉門主任) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

進捗状況は例年通りでしょうか。

(吉門主任)

例年通りです。

### ～集落ぐるみ捕獲推進事業経費(鳥獣対策課)～

(大野主任) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

シカについては深刻な問題ではありますが、今現在、シカの頭数は推定どのくらいでしょうか。

(大野主任)

高知県では推定のシカの生息数は発表していません。野生動物の数を把握するのは難しいからです。

一方、今年度、国の方では日本全体での頭数を新しい方法によって算出し公表しました。高知県でも今年度、シカのモニタリング調査を行い、その中で、過去5年間の生息密度、捕獲の頭数などのデータを元に、一定生息数を算出するよう作業を行っています。おそらく10万頭は下らないのではないかとということがおおかたの見方となっています。

(根小田委員長)

今年の「くくりわな」の効果はどうでしょうか。

(大野主任)

銃とわなでは捕獲効率が大きく異なります。銃は、高知県では猟師1人が100日で、15～20頭獲れると言われています。

わなの場合は、わな一つを100日仕掛けて、平均1.6頭獲れます。1人が30個まで仕掛けることができますが、仕掛ける数によって獲れる数が変わってきます。

わなの場合には技術が必要で、上手な方はたくさん獲れます。獲れない方は全く獲れません。わなの善し悪しではなく、仕掛ける位置であるとか、動物の特性をよくご存じの方がよく獲っていますので、県の単独事業で、技術力パワーアップ研修を行いながら、一人当たりの捕獲頭数を向上させていきたいと考えています。

(片岡委員)

わなの狩猟期というのは決まっているのでしょうか。1年中かけても構わないのでしょうか。

(大野主任)

制度上、有害駆除と狩猟の2つに分かれます。有害駆除は、市町村の許可によって捕獲するもの。狩猟は狩猟期に行うもので、狩猟期は11月15日から3月15日までとなります。許可さえあれば、年中シカを獲れることになっています。

(高橋課長)

事務局から一つ提案です。評価シートの指標が被害額になっています。被害額は他の事業も含め色々な事業をやったトータルの数字でしかつかめません。この事業による効果というのはなかなか見えませんので、単純にアウトプットはわなの配布数にし、アウトカムは捕獲の頭数。単純に見た方が、この事業の効果はわかりやすい気がしますが、どうでしょうか。

(大野主任)

当然、今回配付した「くくりわな」で何頭のシカを捕獲したか、年度末に調査を行い、改めてこの委員会に報告します。シカの捕獲目的は農林業被害及び自然植生被害の軽減のためであることから、アウトカムは被害額削減率にしたいと考えています。なお、今回、提案のあったことについては、課に持ち帰り検討させてください。

(林委員)

今の中間値に「平成26年度の集計」と記載していますが、これでは評価できないので、委員会としては中間で評価できる数値を出してもらった方がありがたいです。

(大野主任)

中間値についてはこのような意見を頂戴したことを課に持ち帰ります。最終の報告の時にも数値がでないことが考えられますので、評価基準については検討させていただきます。

本題とはずれるのですが、このわなは新しく開発したもので、県内の企業に作ってもらいました。作る過程で、県下の狩猟者の方にお願ひし、試作品のわなを山に仕掛けていた

だき、12頭のシカが獲れました。捕獲できることを検証した上で、配布しています。林委員からご指摘いただいたこととは、ずれるかもしれませんが、目安として報告させていただきます。

### ～希少野生動植物保護対策事業(環境共生課)～

(高橋主査) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

状況として全ての食害のある地域をカバーできている訳ではないと思いますが、希少植物として保護しなければならないと考えられている地域で、どのくらいの対策ができているのでしょうか。

(高橋主査)

食害状況の情報がなかなか寄せられてきていないので、全体を把握するのはなかなか難しいのですが、23年度にシカが捕獲されたところに、今までに防護柵を設置した箇所を重ね合わせると、地域としては14%ぐらいのカバーができているという状況です。

(根小田委員長)

被害地域がどんどん拡大して行って、対策が追いつかないという状況でもないと考えていいのでしょうか。

(高橋主査)

石立山、三嶺など被害が本当に深刻な所は、どこに希少植物があったかわからない状態です。柵を張ればもしかしたら希少植物が生えてくることはあるかもしれませんが、どこに張ればよいかわからないような状態です。手遅れになっている所もあるということです。

### ～環境学習推進事業(生涯学習課)～

(瀬沼チーフ) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

委託先はどのようなところでしょうか。

(瀬沼チーフ)

終了したリーダー養成は県立室戸青少年自然の家に委託しました。本部が東京の独立行

政法人国立青少年教育振興機構、県外施設でのリーダー養成の実績もあり、体系的な研修の実施が非常に安価に実施可能であったため委託しました。

インタラクターの養成及びプログラム作成は、県内の自然体験を実施している方達の集まりである「高知自然学校連絡会」という任意団体に委託しています。色々な関係団体の力を結集していただく形で実施しているところです。

高知自然学校連絡会は、2010年高知で開催した全国大会「まなびピア高知」の環境フォーラムでの「高知自然学校構想」という提言をいただいたものを元に、NPOや任意団体の方の協力をいただいて設立した団体です。

(片岡委員)

大学生も参加されたということですが、研修はどのような募集のかけ方をしたのでしょうか。

(瀬沼チーフ)

委託先の方から、チラシをメールなどで配信してもらっています。県の教育委員会も教育関係者に配布し、県のHP「高知体験学習ガイド」でもお知らせをしています。また、高知自然学校連絡会や民間団体が個別に情報を提供して、広くお知らせしていると聞いています。

### ～森林環境保全事業(高等学校課)～

(高橋指導主事) 資料に基づき説明。

(中井委員)

県内に林業関係学科を持つ高校はどのくらいありますか。

(高橋指導主事)

高知農業高校と幡多農業高校の2校です。そのほかでも、林業を教えたり、林業に関係した内容を実施している学校もありますが、高校生後継者育成事業の対象となるのはこの2校となります。

(根小田委員長)

この2校以外からこの事業に参加している生徒はいないのでしょうか。

(高橋指導主事)

その2校以外は対象としていません。窪川高校と嶺北高校で過去には林業系の教科をや



っていましたが、両校とも、現在、教育課程にあげていませんので、この事業の対象とはなりません。

### ～木の香るまちづくり推進事務(木材産業課)～

(大家主査) 資料に基づき説明。

(林委員)

新しい団体から申請があったと言われましたが、例えばどのようなところですか。印象に残っていることで構いませんので。

(大家主査)

保育園や学校が多く、今まではどうしても高知市内や県中部からの申請が多かったのですが、今年度から幡多や県東部からも補助申請がきています。

### ～山の学習支援事業、森づくりへの理解と参加を促す広報事業、こうち山の日推進事業、森林保全ボランティア活動推進事業、運営委員会等開催費(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(林委員)

8月に制定されそうな全国山の日は、こうち山の日と関係がありそうですね。

(高橋課長)

こうち山の日と四国山の日は11月11日ですが、全国山の日は国の超党派の議員からの提案で、今の情報では、年明けの通常国会に提出し、日の案は8月のお盆の頃ということです。賛否両論があり、国民の休日を増やすことについて産業界はあまり賛成していません。そのため、お盆の時期ぐらいで12日という案が出ていました(現在は8月11日という案に見直し)。高知でいうとよさこいの時です。もともと山岳連盟が山開きの時にやりたいというのがありました。多分、来年になったらもっと詳しい話が出てくると思います。

(片岡委員)

こうち山の日ボランティアネットワークはどのくらい団体数があるのですか。

(福田主幹)

県内に35団体登録されているのですが、20団体強がこうち山の日ボランティアネットワ

ークに加盟して活動しています。

(根小田委員長)

林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金ですが、本年度はもうスタートしていますか。

(福田主幹)

25年度からスタートしており、高知県森と緑の会が高知県の事務窓口となっています。県を通らずに国のお金が活動組織に交付されています。

(根小田委員長)

高知県の地域協議会が高知県森と緑の会ということですか。

(福田主幹)

そうです。事業期間は25、26、27年度の3カ年間。現在、林野庁が28年度まで伸ばそうと予算要求中です。まだ予算要求の段階ですのでどうなるかわかりませんが、その期間は森林環境保全基金の積立額が少なくなっていることもありますので、森林保全ボランティア活動推進事業費補助金の休止を提案させていただこうと思っています。

(根小田委員長)

話が別になりますが、民主党政権時代の「森林再生プラン」は政権が変わっても継続されているのでしょうか。

(井澤課長補佐)

今のところ、制度としては搬出間伐が基本となっていますが、保育間伐もできるような仕組みに拡充されています。先程、林業改革課が説明した環境林整備事業でも保育間伐が実施できるようになっていますので、26年度の予算編成においては、基本的に国の事業が活用できる場合は国の方にシフトし、国ではどうしてもできない部分は森林環境税を活用した事業というようなことを、今、予算案の中で組まさせていただいているところです。

(根小田委員長)

他になれば、平成25年度の間接報告について終わります。

### 【3】その他

(井澤補佐) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

委員会の日程が決まりましたら、また知らせていただきたいと思います。

特になければ今日の委員会を終了いたします。長時間ありがとうございました。

以上で閉会